

「笑顔あふれ ひかり輝く 未来へつなぐ 新庁舎」

鹿部町政の拠点が生まれ変わりました



CONCEPT コンセプト

逆境に立ち向かう、不屈の精神

デザイン

これまでの町の文化・歴史が積み重なって現在の町が成り立っていることから、立面は降り積もった軽石によって積層された地層を表現します①。また、水平庇は南面の日射遮蔽にもなります。「逆境に立ち向かう、不屈の精神」を象徴し、勇気や資源をくれた軽石をモチーフ②とし、素材の異なる外壁の凹凸が軽快でリズムカルなファサードを持つ、鹿部町らしい外観デザインとなっています。



設備

間歇泉で知られる鹿部町は、道南有数の温泉の町であり、夏(8月)には「しかべ海と温泉(いでゆ)のまつり」が開催されます。鹿部町の温泉は源泉が30カ所以上あり、その豊富な温泉資源を庁舎の熱エネルギーとして活用し、ランニングコストを低減し、省エネルギーを図っています。

■熱源設備

- ・空調用の主要電源は通常時には温泉熱を主として利用しています
- ・前面道路に敷設されている温泉本管より温泉水を引き込み、温泉水槽に貯留しています
- ・温泉水槽上部の機械室で温泉熱を熱交換した温水を新庁舎内機械室に引き込み、熱を利用しています
- ・温泉熱のバックアップとしてA重油を使用し、温水ボイラーの熱源としています

■空調・換気設備

- ・庁舎の執務エリア、議場エリアは熱交換器組込の空調機(外気調和機)により、冬期も油焚温水ボイラーの温水を利用し室温と同程度の温度で吹出し空調しています(ベース暖房)
- ・省エネを考慮し温泉熱を優先して利用しています

■融雪設備

- ・庁舎のエントランスと広場空間は温泉熱を活用したロードヒーティングを整備しています。

歴史・風土・資源を活かした庁舎

普遍性

あらゆる人々に利用される施設であり、使いやすく、親しみやすい場であることが求められることから、ユニバーサルデザインを導入し、来庁者が短時間で適切なサービスを受けられる、便利で利用しやすい庁舎を目指します。

機能性

多機能で効率的な機能配置、ゾーニング計画を行い、将来の機構改革などにも対応できるフレキシブルな庁舎を目指します。

省エネ

省資源・省エネルギーなど環境負荷低減対策を行ないながら、ランニングコストにも配慮した庁舎を目指します。

防災

地震や噴火、津波や風害などの自然災害発生時において、行政機能を維持するだけでなく、災害対策本部としての機能を発揮できる庁舎を目指します。



行政の拠点



FLOOR フロア案内

3F 議場

●展望ラウンジ ●議会事務局 ●会議室

2F 窓口

総務・防災課【防災・デジタル推進室】／企画振興課
水産経済課【食と観光推進室・漁業振興室】／子ども教育課【教育委員会】

●大会議室 ●町長室 ●副町長室 ●教育長室

1F 窓口

民生課／保健福祉課／建設水道課／税務課／会計課

●多目的スペース ●会議室 ●相談室

鹿部町役場庁舎は防災・省エネ・ユニバーサル機能をさらに充実させた行政の拠点として2021年5月に新設移転しました。「道の駅しかべ間歇泉公園」に接し、高台に位置していることから、北海道駒ヶ岳と海への眺望がよい場所です。道の駅とは、高台への避難用スロープにより、往来が可能となっています。また国道278号鹿部バイパスからアクセス可能な敷地です。敷地の南側には、高台避難の目印となる東屋と花壇があります。



1F窓口



大会議室



多目的スペース



展望ラウンジ



非常用発電機



議場

町民の思いが詰まった新しい庁舎です



お話を聴かせてください!

あらゆる災害に備え、防災拠点となる庁舎です

鹿部町総務・防災課 総務係長 松本 大吾 さん

新庁舎の建設は、職員では私と建設水道課係長の2人が中心となって計画を進めました。普遍性、機能性、省エネ、防災を4つの柱とし、特に防災、省エネに配慮した庁舎になっています。防災面では直下型地震を除き、津波や北海道駒ヶ岳の噴火など、鹿部町で考え得る災害をすべてクリアした防災拠点の役割を担います。庁舎の地下には非常用発電機用油タンク(6,000ℓ)を用意し、災害で町が停電となった時でも自庁舎で3日間は発電をまかなえます。また、省エネ面では温泉熱で温めた水を循環させてパネルヒーターや空調に使うなど、暖房の燃料費はほぼゼロ。また、旧庁舎と比較して職員の執務空間を広くし、業務効率化を図ったことによって町民の皆さんへのサービス向上にもつながっていると思います。

